



クリアション

création



そこが気になる！女性管理職登用問題って？
～ジェンダーギャップ指数からわかること～



今起きている時事問題を隔月で取り上げ、男女共同参画の視点で解説していただく全5回シリーズ講座を開催します！
第1回目のテーマは「女性管理職登用問題の現状と課題」について、わかりやすくお話しいただきます。
今後開催予定の4回につきましては、その時々々の時事問題を取り上げていきたいと思っております。

- ◆日時◆ 6月27日(日) 午後2時～3時30分
- ◆定員◆ 30名
- ◆保育◆ なし



専門は労働・福祉政策、ジェンダー論、メディア論。女性登用や働き方改革、育児・介護問題、男性の生きづらさなどをテーマに研究。『女性活躍』に翻弄される人びと』ほか著書多数。最新作は『捨てられる男たち 劣化した「男社会」の裏で起きていること』。

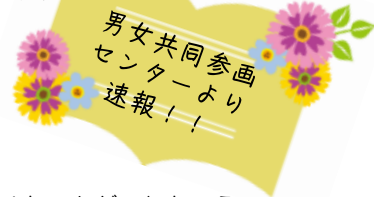
◆講師◆ 奥田 祥子さん
(近畿大学社会連携推進センター教授)



今後の開催は8月、10月、12月2月を予定しています。



2021年のジェンダーギャップ指数が発表されました



男女格差の大きさを国別に比較したジェンダーギャップ指数が3月31日に発表されました。日本は調査対象となった156ヶ国のうち120位でした。前年度は121位だったため、順位はひとつ上がったといえますがG7の中では相変わらず最下位と低迷しています。

そもそもジェンダーギャップ指数とは、世界経済フォーラム(WEF)が経済、政治、教育、健康の4つの分野のデータから作成した各国の男女の格差を分析した指数です。0が完全不平等、1が男女平等を示しており、今回日本は0.656という結果でした。ジェンダーギャップ指数は各分野での国の発展レベルを評価したものではなく、純粋に男女の差だけに着目して評価しているのが特徴です。

各分野のランキングでは教育分野が92位、健康分野が65位、経済分野が117位、特に156ヶ国中147位とかなり低い結果となったのが政治分野です。

政治分野(前年は144位)のスコアがなかなか改善されない要因として国会議員や閣僚に女性が少ないこと、一度も女性首相が誕生していないことです。日本の政治・経済分野の指数が伸び悩む背景として、日本にはまだまだジェンダー格差が残っているといえるのではないのでしょうか。

また、経済分野も前年度の115位よりランクを落とした要因として男女の収入格差や、男性に比べて女性の非正規雇用者が倍以上にのぼること、何より女性管理職の割合が低いことが挙げられます。

首位アイスランドのスコアは0.892と日本との差は大きいですがそれ以上に目立つのは日本の改善率の低さではないのでしょうか。アイスランドが前回調査から0.015ポイント改善したのに対し、日本は0.004ポイントにとどまっています。これを改善していくことが日本社会の急務といえるでしょう。

順位	国名	指数
1位	アイスランド	0.892
2位	フィンランド	0.861
3位	ノルウェー	0.849
102位	韓国	0.687
107位	中国	0.682
120位	日本	0.656



←ジェンダーギャップ指数ランキング
(ジェンダーギャップ指数2021より)

